

川柳で  
今の思いを伝えよう！

令和2年9月30日(水) 上鈴木春枝  
(柴又・川千家(かわちや)川柳教室 講師)

## A 「川柳」の誕生

江戸時代・元禄(1688~1704)頃から庶民の間に流行したものに「前句付(まへくづ)」があります。

「前句付」とは、題として出された「7・7」の前句(短句)に、「5・7・5」の付句(つけく) (長句)を付けることです。

◎ それでは下記の前句(7・7)と付句(5・7・5)をつなげてみましょう。

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| ① かわい事かな かわい事かな・   | ・ A 妙薬を開ければ中は小判なり   |
| ② 離れこそすれ 離れこそすれ・   | ・ B さやかなる月を隠せる花の枝   |
| ③ ありがたい事 ありがたい事・   | ・ C 雷をまねて腹掛けやっとなせ   |
| ④ 切りたくもあり 切りたくもなし・ | ・ D 子が出来て川の字なりに寝る夫婦 |
|                    | ・ E 盗人を捕らえてみればわが子なり |

「川柳」とは、この前句付の点者(てんじや)(選者のこと)であった、柄井川柳(からいせんりゅう)(1718~1790)の名前からきています。

柄井川柳(本名・八右衛門)さんは、宝暦7年(1757年)、40歳の時に点者として、8月25日に万句合( )の第1回の開キを興業し、その入選句をまとめた『川柳評万句合( )』を出します。

※ 第1回の開キが行われた8月25日は「川柳の日」です。また、柄井川柳の命日である9月23日は「川柳忌」となっています。

明和2年(1765年)には『誹風柳多留( )・全』が刊行され、後に、これは初篇と呼ばれるようになります。そして、天保11年(1840年)の167篇まで刊行されました。

川柳は約250年、庶民の共感や連帯感を生み出してきた文芸です。  
「そうそう、そうだよねえ～」と楽しむことは、江戸時代から現代まで全く変わっていません。

## B 「俳句」とどう違うのでしょうか？

川柳と、俳句は同じ「( )・( )・( )」の( )音)で詠む、定型詩です。それでは、下記の作品は川柳でしょうか？ 俳句でしょうか？ 川柳だと思う作品に、○をつけてみましょう。

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 新米や十勝は水のうまき国     | 2 新米が届いて早い秋を知り   |
| 3 しみじみと秋刀魚は無事の味すなり | 4 さんま焦げ夫婦喧嘩の続いてる |
| 5 ゆれかはしゐてコスモスの影もなし | 6 コスモスが招く津和野の鷺の宿 |

川柳の親も俳句の親も、俳諧( )《正式には俳諧の連歌( )》です。

すなわち、川柳と俳句は、俳諧という文芸から生まれた兄弟なので、その姿や形はそっくりです。しかし、兄弟と言っても、性格は異なります。

兄の( )は、おっとり澄まして、四季の花鳥風月を友としています。  
弟の( )は、何の気取りもなく、季語や切れ字にもとらわれず、現代仮名遣いや新字体を用いて、しゃべりことば(口語体)で率直に作り、人間を友としています。

しかし、現代は多様な表現方式をとるようになっており、俳句か川柳か、区別のない作品もありますが、「純粋な川柳」と「純粋な俳句」とには、大きな違いがあります。

## C ことばの音数を数えてみましょう

- ①小さい「っ」は、1音になります。→促音
- ②「ん」も、1音になります。→撥音
- ③長くのばして発する音・長音記号「ー」も、1音になります。→長音
- ④「しゃ」「しゅ」「しょ」などは、2文字ですが、1音になります。→拗音

◎下記のことばの音数を数えてみましょう。

- |          |            |            |
|----------|------------|------------|
| ①感染症( )  | ②クルーズ船( )  | ③東京アラート( ) |
| ④外出自粛( ) | ⑤パンデミック( ) | ⑥クラスター( )  |

- |                                      |
|--------------------------------------|
| ①最初の5音 ⇔ 上五（かみご） ・ 初五（しよご） ・ 初句（しよく） |
| ②真ん中の7音 ⇨ 中七（なかしち） ・ 中句（なかく）         |
| ③終わりの5音 ⇨ 下五（しもご） ・ 座五（ざご） ・ 結句（けっく） |

最初の「5音」は、字余りが許されますが、字足らずには、ならないようにしましょう。真ん中の「7音」と、終わりの「5音」は必ず守りましょう。

1 医者通いの予定で大変定年後→

2 コロナ禍で開催できぬ同窓会→

3 スーパーでマスク顔の急ぎ足→

## D 「古川柳」を読んでみましょう

『俳風柳多留』は167篇まで刊行され、24篇までが柄井川柳の選句で、文芸的な価値が高くこれを「古川柳」と呼びます。

初代川柳の死後、江戸時代に詠まれた川柳を「江戸川柳」と呼びますが、この分け方は明確ではなく、江戸時代に詠まれた川柳すべてを「古川柳」、あるいは「江戸川柳」と呼んでいます。

- ① 本降りになって出て行く（5音 ）
- ② 泣き泣きもよい方をとる（5音 ）
- ③ 寝ていても（3音 ）の動く親心
- ④ これ小判たった（4音 ）居てくれろ
- ⑤ はえば立て立てば歩めの（5音 ）
- 
- ⑥ 居候（2音 ）杯目にはそっと出し
- ⑦ 飲まぬやつ（4音 ）食うと花にあき
- ⑧ （4音 ）の隣茶漬けを（2音 ）で食い
- ⑨ 女房を怖がるやつは（2音 ）が出来
- ⑩ 役人の子は（4音 ）をよくおぼえ

## E 「現代の川柳」を読んでみましょう

- ① 喜寿迎え大器晩成（5音）
- ② （2音）合は安定剤としての酒
- ③ クラス会（3音）の愚痴と子の（3音）
- ④ 好きなものばかりやめろと（2音）は言う
- ⑤ マスクして（1音）で挨拶に（5音）

川柳は、身の回りにあるすべての事柄をテーマ（句材）として、話し言葉（口語体）で詠みます。他人を中傷したり、人格を否定したりしない限り、何を、どのように詠もうと自由です。しかし、たったひとつの大切なルールだけは、守ってください。そのたったひとつのルールとは、「5・7・5」の「リズム感」です。

『リズムを持たない川柳は / 踊れない靴のようなものだ /  
我々の靴は / 舞踊靴でなければならない』

（川上三太郎単語集より）

NHK大河ドラマにちなみ、古川柳から「明智光秀」に関する句を

- ① 人の手を借りて信長腹を立て  
（寵愛する小姓・森蘭丸に命じ鉄扇で光秀の眉間を打たせた）
- ② 愛宕からあそこだなあと本能寺  
（信長が本能寺に入った日、光秀は愛宕山で催された連歌の会に出掛けていた）
- ③ 本能寺寝耳に鬨の音がする
- ④ 四日目は明智日陰の守に成り（三日天下のことばから、日向守光秀が日陰守に）

-4- 「江戸川柳で愉しむ日本の歴史」松田征士著（学芸館出版）  
より一部引用